

令和 2 年 4 月 28 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04352

研究課題名(和文) 外国籍児童青年に対する複合的な文化的基底に立つメンタルヘルス支援モデルの開発

研究課題名(英文) A Study on Mental Health of Foreign Student in Japan

研究代表者

松本 真理子 (Matsumoto, Mariko)

名古屋大学・教育発達科学研究科・教授

研究者番号：80229575

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本に在住する外国にルーツをもつ外国人児童を対象として、ウェルビーイングを明らかにすること、日本語能力との関連を検討することを目的とした。特に、彼ら自身の幸福感について文章完成法を用いて、国際比較研究を行うことによって、研究が皆無であった質的アプローチも試みた。その結果、総じて外国にルーツを持ち日本に在住する外国人児童のウェルビーイングは高くないこと、現場での彼らに対する教育についてはフィンランドの学校現場との比較から課題が多いことが示された。特に日本語能力が低い児童においては、ウェルビーイングが高くないこと、また担任教師の存在が大きいことが示され現場に有効な知見を発信することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国にルーツを持つ外国人児童に関するメンタルヘルスあるいはウェルビーイングに関する研究はわが国では皆無の状況であった。本研究によって、新たな知見が複数得られ、今後ますます増加するであろう外国人児童に対するウェルビーイングの視点からの支援に大きな貢献となった。

特に、日本語能力の程度が、彼らのウェルビーイングにも影響を及ぼすことが明らかになり、やはり日本語に関する教育はこの点でも重要であることが示唆された。

また学校現場では、担任教師の存在が彼らにとって重要な役割を果たしていることも示唆され、今後の教師の彼らへのかかわりにおいて大きな知見となるであろう。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify mental health of foreign children in Japan. The results are as follows;

1. Their well being is lower than Japanese children. 2. Particularly, children who have the low ability of Japanese language are lowest well being. 3. A classroom teacher is very important for them and their well being.

研究分野：臨床心理学

キーワード：外国人児童 ウェルビーイング 日本語能力 国際比較 文章完成法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

外国籍児童青年の急増と多国籍化：わが国における小中学校に在籍する外国籍児童生徒は、研究申請当時、約 **29,000** 名（文科省 **2014**）であり、前年比 **8%** 増と増加の一途を辿っており現在もその傾向は継続している。彼らの母国語についても、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語と中国語をはじめ、世界各国語の多岐にわたっており、小中学校での教育は試行錯誤の段階にある。また大学等高等教育機関への留学生数は **184,000** 名（日本学生支援機構 **2014**）と前年比 **10%** を超え増加の一途である。そのうち、**1%** 以上の学生が来日している海外国は **10** か国を超え、欧米、アジア、アフリカ等、世界各国からの学生が在籍している状況である。

一方で、こうした外国籍児童青年における、日本の文化社会への満足感、自尊感情や学校適応感などウェルビーイングに関する臨床心理学的研究は申請者ら（蒔田他、**2011**）によるブラジル人児童の **QOL** 調査はあるものの皆無と断言している現状にあった。将来的に一層増加するであろう外国人児童青年に対する臨床心理学基礎研究は必要不可欠と考えられた。

2. 研究の目的

日本に在住する外国人児童青年（外国にルーツをもつ児童青年）の広くウェルビーイングについて日本人および国際比較による量的、質的調査と現地調査などを通して実態を明らかにすることを第一の目的とする。

第二の目的として、これらの成果を広く学会発表、論文、セミナーなどによって国内外で共有し、今後の外国人児童青年に対するウェルビーイング支援についての議論を深め、最終的にはわが国の特に教育現場への提言発信を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

調査については名古屋大学教育発達科学研究科研究倫理委員会の承諾を得て実施している。

平成 28 年度

外国人児童のウェルビーイングに関する基礎調査

外国人児童小学生高学年 300 名、日本人児童 800 名、保護者 900 名を対象としてウェルビーイング調査を実施した。具体的には Kid-KINDL 質問紙、動的学校画、対人葛藤解決方略質問紙と保護者質問紙を実施した。

フィンランドにおける現地調査

フィンランドにおける外国人児童に対する教育の実態について現地小学校視察、および教師、保護者、関係者へのインタビュー調査を行った。2018 年 19 日（日本出発）～25 日（朝、日本帰国）。

平成 29 年度

第 1 段階の調査成果を踏まえ、ウェルビーイングの質的アプローチによる解明を行った。具体的には、第 2 段階の調査として、主観的幸福感に関する文章完成法を用いた調査を行った。方法は、大山ら（2010）の主観的幸福感（sense of happiness）の S C T を参考として児童版を作成し、日本人児童、日本在住の外国人児童、モンゴル、フィンランドにおける児童の 4 群計 946 名を対象として、実施した。

青年期の大学生（母国外で学生生活を送る留学生、海外で学生生活を送る日本人学生）に関する、メンタルヘルスについて、研究協力者の鈴木健一教授（名古屋大学）が、米国での学生相談における留学生問題について研修会に参加、情報を収集した。

平成 30 年度

平成 28 年度、29 年度の研究成果を国内外の学会で発信、さらに外国人児童のウェルビーイングを広く社会で考える機会として、国際公開セミナーを実施した（名古屋大学）。

4. 研究成果

平成 28 年度実施調査（質問紙調査）

外国人児童は日本人に比して、全体にウェルビーイングが低得点であり、特に「友達」「学校」において低いことが明らかになった。また日本語能力の要因とウェルビーイングについては、日本語能力が低い児童において、その傾向が顕著であることや小学校における外国人児童の在籍率によって、学校間の相違が認められた。すなわち、外国人が集住して在籍率の高い小学校と外国人児童の少ない小学校では、集住地域の外国人児童の方が、全体としてウェルビーイングが高いことが示唆された。

また外国人児童にとって担任教師の存在は大きく、特に日本語能力が低い児童の場合にはその傾向が顕著であることが示された。

外国人児童の保護者に対する調査では、約 90% の保護者が日本への定住を希望しており、子育てにおいて重要だと思ふ事柄は、日本の高校や大学へ進学すること、が示された。

平成 29 年度調査（質的調査）

質的な主観的幸福に焦点をあてて、文章完成法（SCT）を用いた国際比較研究を実施した。対象は日本人児童、日本在住の外国人児童、モンゴル人児童、フィンランド人児童 計 1000 名であった。文章完成法の刺激語は、大山ら（2010）の主観的幸福感(sense of happiness)のSCTを参考として児童版を作成し、「わたしがしあわせだと思うときは」「わたしがふしあわせだと思うときは」「わたしにとってしあわせとは」の3項目として、これを、フィンランド語、モンゴル語に翻訳実施した。実施においては、日本語能力の低い外国人児童に対しては、教師からの個別の意味の説明（翻訳）および回答は母国語でよいとした。これらの調査は名古屋大学教育発達科学研究科研究倫理委員会の承諾を得て実施した。

結果は、国内外学会および国際セミナーにおいて発表しているが、「わたしにとってしあわせとは」に関する結果を一部紹介する。

大山（2012）の日本人成人の幸福の定義を分類するカテゴリーを参照して、分析した結果、児童の幸福の定義には、全体として、他者との[共存]や、[感情]に関する記述が多く認められ、国や文化を超えた児童の幸福の共通要素として、家族や友人といった身近な他者と共に過ごすことや、肯定的な感情状態が挙げられることが示された。各群の特徴については以下のとおりである。

日本人児童：「友達」と「遊ぶ」、「食べる」、「ゲーム」など、日々の生活行為に関する記述が多く認められた。大山（2012）のカテゴリー分類では[自由]に相当する。日常生活の中で、自分のやりたいことができることが幸福であると捉えていることが示唆された。

日本在住の外国人児童：頻出語については日本人児童との類似性が高く、日本の文化や価値観が反映されているものと考えられた。調査対象者数および総抽出語数が他群に比して少ないため、独自の傾向が見出しにくかったという可能性も否めないが、少数ではあるがこの群にのみ「無い」という記述が認められたことは、彼らの異文化の生活における幸福の問題を示唆しているものとも思われた。また「ふしあわせなとき」の項目に対しては「いじめられる」という記述も認められており、教育現場での課題が示唆された。

フィンランド人児童：「重要」「素敵」「素晴らしい」といった[観念]に相当する記述が特徴的であった。子どもが個として尊重される文化で育つことにより、児童自身の中にも「幸福＝重要なもの」という価値観が根付いていることが考えられた。

モンゴル人児童：[共存]に関する多様な記述が特徴的であった。特に家族との関係性を重視し、「人々」にとっての良い状態にも関心を向けているなど、集団主義的な文化の影響が窺われた。

視察調査の結果

フィンランドにおいてフィンランドの学校環境における外国人児童生徒の教育や社会支援システムについて観察、インタビュー調査を実施した。フィンランドでは母国とフィンランドの両国を尊重する教育姿勢が徹底していることが明らかになった。母国語教育においても国家全体で保障されていることが明らかになり、これらは外国人児童のウェルビーイングにおいて重要な点と思われた。一方、フィンランドにおいても外国人の集住地域からは、フィンランド人が減少していることなどが課題であることが示され、日本と同様の傾向にあることもうかがわれた。

以上の成果を基盤として、外国人児童の幸福感を広く社会において考えることを趣旨として平成 31 年 3 月に平成 31 年 3 月 18 日に国際公開セミナー（名古屋大学）を開催した。本セミナーには 6 各国約 60 名の一般市民、教育関係者等が集い、子どもの幸福感を促進する教育について活発な議論が行われた。

これらの研究を通じて、日本における外国人児童（外国にルーツを持つ児童）に対するウェルビーイングの視点に立った基礎研究が今後も望まれること、日本語能力とウェルビーイングの視点も重要な要因であること、現状では、外国人児童のウェルビーイングや幸福感には解決すべき課題があること、学校現場では担任教師の存在が、外国人児童にとって大きな意味をもつことなどが明らかになった。

これらは、同時に今後の教育現場および臨床心理学の重要な課題であると思われ、一層の研究の発展、教育現場でのよりよい教育への検討が望まれるものである。

付記：一連の本研究においてご協力いただきました各国の子どもたちと先生方に深く感謝申し上げます。また、本科研助成をいただいたことにより、日本における外国人児童に対するウェルビーイングに関する貢献ができましたことを心より感謝申し上げます。

受賞

最優秀論文賞

野村あすか、松本真理子、鈴木伸子、稲垣美絢、坪井裕子、森田美弥子 2019

日本における外国人児童のウェルビーイングに関する研究 日本語能力との関係から

ポスター賞、

1 .Asuka Nomura, Mariko Matsumoto, Lauri Kemppinen, Dandii Odgerel, Yuki Ninomiya, Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita. 2019.

An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish, and Mongolian Children (2): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Happiness. *18th International Congress of ESCAP 30 June - 2 July 2019, Vienna, Austria*

2.Yuki Ninomiya, Mariko Matsumoto, Asuka Nomura Lauri Kemppinen, Dandii Odgerel, , Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita.2019

An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish, and Mongolian Children (3): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Unhappiness. *18th International Congress of ESCAP 30 June - 2 July 2019, Vienna, Austria.*

3.野村あすか、松本真理子、二宮有輝、鈴木伸子、坪井裕子、森田美弥子、2020 文章完成法からみた児童の主観的幸福感に関する国際比較研究 日本人、日本在住の外国人、フィンランド人、モンゴル人児童による幸福の定義 日本学校メンタルヘルス学会第23回大会、就実大学、岡山 2月8日

関連業績

学会発表

1.垣内圭子、松本真理子、坪井裕子、鈴木伸子、野村あすか、大矢優花、二宮有輝、森田美弥子 2016 外国人中学生におけるウェルビーイング-動的学校画に焦点をあてて-

日本学校心理学会第18回大会(名古屋大学)

2.松本真理子、坪井裕子、鈴木伸子、野村あすか、垣内圭子、大矢優花、二宮有輝、稲垣美絢、森田美弥子 2017 日本における外国人児童のウェルビーイング(1) 背景としての家庭環境 .日本学校心理学会第19回大会(筑波大学)

3.野村あすか、松本真理子、坪井裕子、鈴木伸子垣内圭子、大矢優花、二宮有輝、稲垣美絢、森田美弥子 2017 日本における外国人児童のウェルビーイング(2) 日本語能力に着目したQOL .日本学校心理学会第19回大会(筑波大学)

4.稲垣美絢、垣内圭子、松本真理子、坪井裕子、鈴木伸子、野村あすか、大矢優花、二宮有輝、森田美弥子 2017 日本における外国人児童のウェルビーイング(3) 地域特性および日本語能力に着目した動的学校画 .日本学校心理学会第19回大会(筑波大学)

5.鈴木伸子、松本真理子、坪井裕子、野村あすか、垣内圭子、大矢優花、二宮有輝、稲垣美絢、森田美弥子 2017 日本における外国人児童のウェルビーイング(4) 地域特性および日本語能力に着目した対人葛藤解決方略 .日本学校心理学会第19回大会(筑波大学)

6.福元理英、若林紀乃、野村あすか、野邑健二、松本真理子、森田美弥子 2017 日本とモンゴルの小学校における「気になる」児童に関する検討 SDQを用いて .日本学校心理学会第19回大会(筑波大学)

7.Yuki NINOMIYA1, Mariko MATSUMOTO, Mihiro INAGAKI1, Asuka NOMURA, Nobuko SUZUKI, Hiroko Tsuboi, Miyako MORITA 2018 Assessment of Japanese Students' Sense of Happiness via the Sentence Completion Test(1): Comparison with foreign students. The 40th International School Psychology Association conference 25-28, Tokyo.

8. Asuka NOMURA, Mariko MATSUMOTO, Yuki NINOMIYA, Mihiro INAGAKI, Nobuko SUZUKI, Hiroko Tsuboi, Miyako MORITA, 2018 Assessment of Japanese Students' Sense of Happiness via the Sentence Completion Test (2): Comparison with Japanese Adults. The 40th International School Psychology Association conference , Tokyo.

9.Hiroko Tsuboi, M. Matsumoto, L. Kemppinen, D. Odgerel, Y. Ninomiya, S. Keskinen, E. Keskinen, N. Oyuntungalag, A. Nomura, N. Suzuki, C. Hatagaki, H. Matsumoto, M. Morita

2019 An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish and Mongolian Children (1): Analysis of Happiness Scale.

18th International Congress of ESCAP, Vienna, Austria.

10. Asuka Nomura, Mariko Matsumoto, Lauri Kemppinen, Dandii Odgerel, Yuki Ninomiya, Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita

An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish, and Mongolian Children (2): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Happiness. 18th International Congress of ESCAP, Vienna, Austria.

11. Yuki Ninomiya, Mariko Matsumoto, Asuka Nomura Lauri Kemppinen, Dandii Odgerel, , Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita 2019 An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish, and Mongolian Children (3): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Unhappiness. 18th International Congress of ESCAP, Vienna, Austria.

12. 野村あすか、松本真理子、二宮有輝、鈴木伸子、坪井裕子、森田美弥子、2020 文章完成法からみた児童の主観的幸福感に関する国際比較研究 日本人、日本在住の外国人、フィンランド人、モンゴル人児童による幸福の定義 日本学校メンタルヘルス学会第23回大会(就実大学).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 野村あすか、松本真理子、鈴木伸子、他	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 日本における外国人児童のウェルビーイングに関する研究 日本語能力との関係から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校メンタルヘルス	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Yuki NINOMIYA1, Mariko MATSUMOTO, Mihiro et al.
2. 発表標題 Assessment of Japanese Students' Sense of Happiness via the Sentence Completion Test(1): Comparison with foreign students,
3. 学会等名 The 40th International School Psychology Association conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asuka NOMURA, Mariko MATSUMOTO, Yuki NINOMIYA, et al.
2. 発表標題 Assessment of Japanese Students' Sense of Happiness via the Sentence Completion Test (2): Comparison with Japanese Adults
3. 学会等名 The 40th International School Psychology Association conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本真理子 他8名
2. 発表標題 日本における外国人児童のウェルビーイング(1) 背景としての家庭環境
3. 学会等名 日本学校心理学会第19回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野村あすか、松本真理子、他7名
2. 発表標題 日本における外国人児童のウェルビーイング(2) 日本語能力に着目したQOL
3. 学会等名 日本学校心理学会第19回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲垣美絢、垣内圭子、松本真理子 他6名
2. 発表標題 日本における外国人児童のウェルビーイング(3) 地域特性および日本語能力に着目した動的学校画
3. 学会等名 日本学校心理学会第19回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木伸子、松本真理子
2. 発表標題 日本における外国人児童のウェルビーイング(4) 地域特性および日本語能力に着目した対人葛藤解決方略
3. 学会等名 日本学校心理学会第19回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroko Tsuboi, M. Matsumoto, L. Kemppinen, D. Odogerel, Y. Ninomiya, S. Keskinen, E.Keskinen, N.Oyuntungalag, A. Nomura, N. Suzuki, C. Hatagaki, H. Matsumoto, M. Morita
2. 発表標題 An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese,
3. 学会等名 18th International Congress of ESCAP, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asuka Nomura, Mariko Matsumoto, Lauri Kempainen, Dandii Odgerel, Yuki Ninomiya, Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita
2. 発表標題 An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan, Japanese, Finnish, and Mongolian Children (2): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Happiness
3. 学会等名 18th International Congress of ESCAP (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Ninomiya, Mariko Matsumoto, Asuka Nomura Lauri Kempainen, Dandii Odgerel, , Soili Keskinen, Esko Keskinen, Nergui Oyuntungalag, Hiroko Tsuboi, Nobuko Suzuki, Chie Hatagaki, Mihiro Inagaki, Yutaka Fukui, Miyako Morita
2. 発表標題 An International Comparison of Happiness in Foreign Children in Japan,Japanese, Finnish, and Mongolian Children (3): Analysis of the Sentence Completion Test on Sense of Unhappiness
3. 学会等名 18th International Congress of ESCAP, Vienna, Austria (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野村あすか、松本真理子、二宮有輝、鈴木伸子、坪井裕子、森田美弥子
2. 発表標題 文章完成法からみた児童の主観的幸福感に関する国際比較研究 日本人、日本在住の外国人、フィンランド人、モンゴル人児童による幸福の定義
3. 学会等名 日本学校メンタルヘルス学会第23回大会(就実大学)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	鈴木 健一 (SUZUKI KENICHI) (10284142)	名古屋大学・心の発達支援研究実践センター・教授 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坪井 裕子 (TSUBOI HIROKO) (40421268)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授 (23903)	
研究協力者	森田 美弥子 (MORITA MIYAKO)		
研究協力者	野村 あすか (NOMURA ASUKA)		
研究協力者	鈴木 伸子 (SUZUKI NOBUKO)		
研究協力者	ケスキネン ソイリ (KESUKINEN SOILI)		
研究協力者	ケスキネン エスコ (KESKINEN ESKO)		
研究協力者	ケンピネン ラウリ (KENPINEN RAURI)		
研究協力者	オドゲレル ダンディ (ODOGERERU DANDHI)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力 者	オユンチュガラング ネルギ (OYUNTYUTYUGU NERUGI)		